

注目ポイント！

- 「見る観光地」から農業、工芸、乗馬など産業を活かした「体験型観光地」へ。
- 官民が連携して、協働による産業観光の推進。



人口7,600人に対し、観光入込客数が平成8年度以降、年間100万人以上に！



綾の照葉樹林と照葉大吊橋

コラム

綾溪谷の照葉樹林帯伐採計画を、住民の強い反対運動で阻止した。その後、この貴重な森を守るため、昭和45年から国定公園の指定に向けた運動を近隣11市町村で展開し、昭和57年に国定公園としての指定を受けた。

平成元年には、「緑の国勢調査」で現存する照葉樹林帯日本一が認められた。

現在、この豊かな照葉樹林を後世に引き継ぐため、また世界遺産登録を目指し、住民参加型の保護・復元運動が始動している。

これまでの経緯

- | | |
|-------------|---|
| 昭和57年(1982) | 「九州中央山地国定公園」に指定される。 |
| 昭和58年(1983) | 「綾溪谷の照葉樹林」が日本の自然百選に選定される。 |
| 昭和59年(1984) | 歩行用吊橋として、日本一の高さを誇る「綾の照葉大吊橋」を架設する。 |
| 昭和60年(1985) | 「綾川湧水群」が日本名水百選に選定される。 |
| 平成元年(1989) | 環境庁の第1回「緑の国勢調査」において綾の照葉樹林が国内最大面積(1,700ha)であることが確認される。 |
| 平成3年(1991) | 「綾町」がふるさとづくり大賞を受賞する。 |
| 平成7年(1995) | 「照葉樹林都市・綾」が水の郷に認定される。
「綾の照葉樹林」が水源の森百選に選定される。 |
| 平成9年(1997) | (社)日本観光協会の「優秀観光地づくり賞」を受賞する。 |
| 平成14年(2002) | 「豊かなむらづくり農林水産大臣賞」を受賞する。 |
| 平成17年(2005) | 「綾川流域照葉樹林帯保護・復元プロジェクト」が発足する。 |

綾の照葉樹林プロジェクト

平成17年5月、九州森林管理局、綾町、宮崎県、自然保護協会、関連NPO等による九州初の「綾川流域照葉樹林帯保護・復元プロジェクト」が発足。照葉樹林及び隣接する森林1万haを舞台に、保護林の新設や人工林から照葉樹林への復元を住民参加型で実践。森林ガイドボランティアによる森林環境教育なども開催。



照葉樹林プロジェクト調印式



手づくりほんものセンター

有機農業の里づくり

昭和63年、全国初の「自然生態系農業の推進に関する条例」を制定し、消費者が求める安全、安心な農産物の生産を町ぐるみで取組み、この農産物等を販売するため、顔の見える関係と手づくりに拘った「手づくりほんものセンター」(町整備、商工会管理・運営)を平成元年に開設。

年間の利用客35万人、売上3.5億円超。

手づくり工芸の里づくり

町内には、陶芸や染織、木工など40工房が点在。工房は手づくりに拘り、昭和55年町が主体の「綾町工芸コミュニティ協議会」を設立し、毎年11月に全工房が一堂に介し「綾工芸まつり」を開催。主な工芸品は、天然繭を使った「綾紬」、ガラスの「綾切子」、「綾の将棋・碁盤」など多数。

綾工芸まつり



スポーツ合宿交流の里づくり

地域の活性化と青少年の健全育成のため「スポーツランド綾」を掲げ、積極的にスポーツ合宿を受入。平成17年4月には、綾産材の杉を利用した多目的屋内施設「綾てるはドーム」(アリーナ面積 4,800㎡)を建設。合宿チームは、サッカーリーグ3チームを始め、野球、バレーボール、ハンドボールなど年間200団体を超え、見学者も増加し、商店街活性化にも寄与。

てるはドームでの合宿風景

